

「音の最先端」をオールカラーでお届け!

平成28年12月1日発行 第6巻第4号通巻24号 ISSN 2186-7216

季刊・ネットオーディオ

Net Audio

付録

録り下ろしハイレゾ音源

CD-R+ダウンロードコード

vol. **24**
2016 WINTER

Phile
web



井筒香奈江 WAV
eilex HD Remaster

Akiyoshi Yasuda PCM
32bit

赤坂工芸音研 feat.さてん DIFF
FLAC

森山威男 PIT INN LIVE FLAC
DSF

groovers

厳選音源フリーダウンロードクーポン



ちょい足してもっと良い音を
アクセサリを使いこなせ!

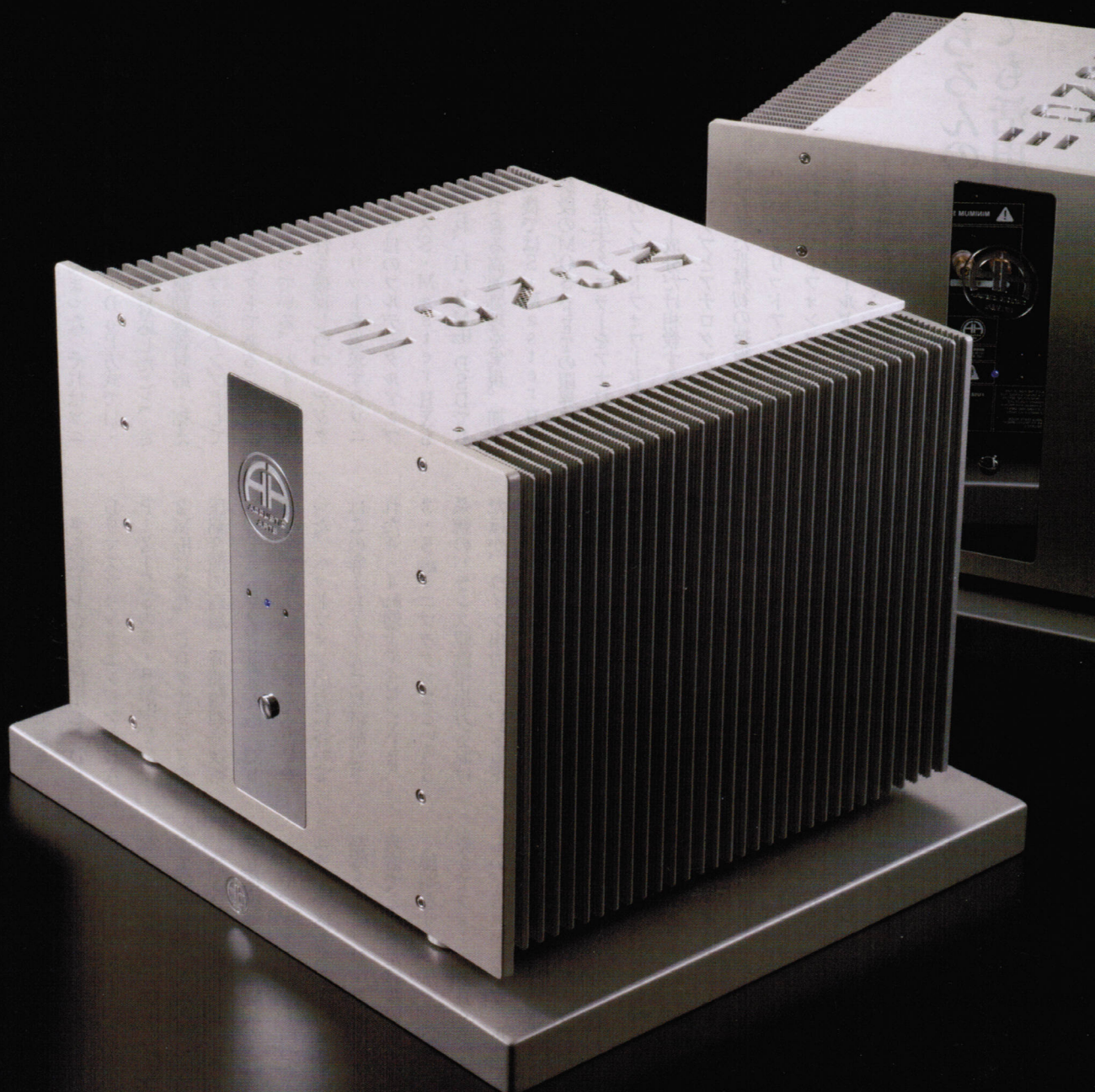
知る デジタル再生の要を
Spotify上陸から考えるこれからのハイレゾ再生

ACCUSTIC ARTS MONOIII

モノラルパワーアンプ

¥3,800,000 (ペア、税別)

*専用ベースはオプション (¥200,000/ペア、税別)



ダンピングファクター直線化の 独自回路を搭載した超弩級パワーアンプ

ACCUSTIC ARTS

AMPII-MK3

パワーアンプ

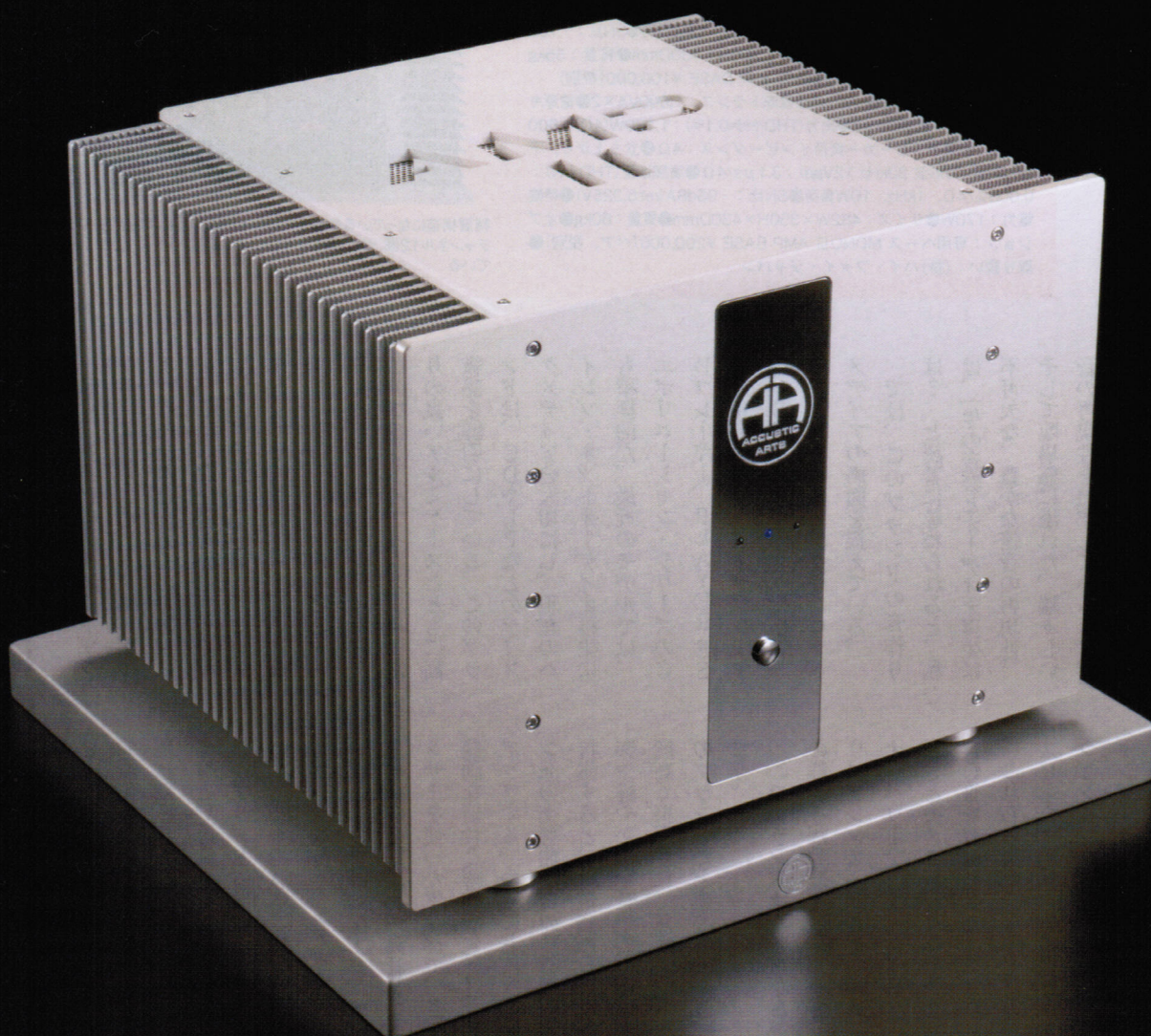
¥1,850,000(税別)

*専用ベースはオプション(¥100,000、税別)

Text by
角田郁雄
Ikuo Tsunoda

Photo by
田代法生

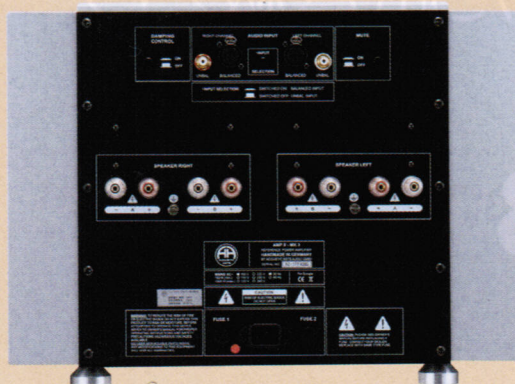
ACCUSTIC ARTS(アコースティック・アーツ)は、ドイツの有名ハイエンドブランドである。ここで紹介する2モデルは今年のミュンヘン・ハイエンド・ショウで発表し、話題を集めた、弩級パワーアンプである。AMP II-MK3は、人気パワーアンプの最新バージョン。MONOⅢは、フラッグシップ機となるモノラルパワーアンプである。スピーカーの最適なドライブのために、ダンピングファクターを直線化する独自回路が搭載されているのが大きな特徴である。



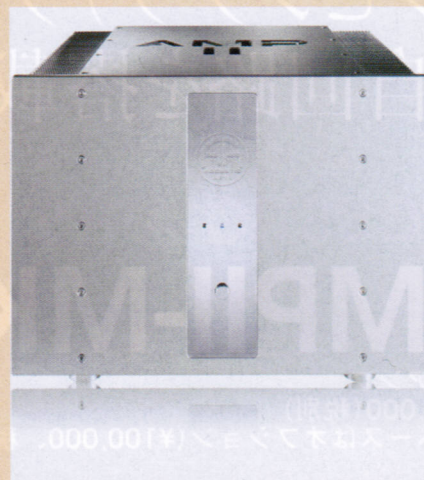
生演奏に迫るほどのリアリティを感じさせる ドイツ・ハイエンドブランドの意欲作

Point

■ 高品位パーツをふんだんに使用



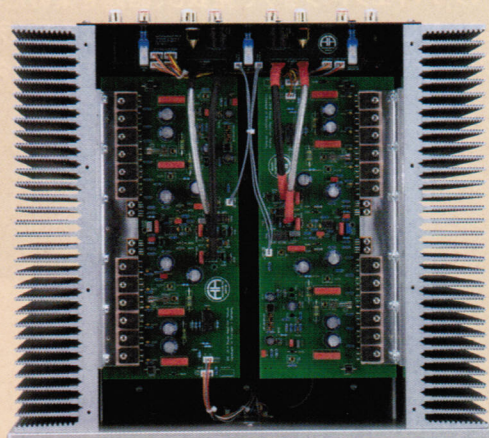
AMP II-MK3のリアパネル。入力端子はRCAとXLRを各1系統装備。スピーカー出力端子は2系統。左上にダンピングファクター直線化機能をON/OFFするためのスイッチが設けられている



AMP II-MK3のフロントパネル。中央のプレートにロゴマークとメインスイッチ、LEDが置かれている

Specifications

<AMP II-MK3>●電圧利得：31.0dB●電源トランス：1,100VA×2
●電源キャパシター：160,000μF●出力(THD+N=0.1%)：675W/ch(2Ω)、450W/ch(4Ω)、275W/ch(8Ω)●立ち上がり、下がり時間(方形波 20kHz 12Vpp)：3.1μs/4Ω●クロストーク：109dB(1kHz)
●高調波歪(THD+N)：0.001%/4Ω、1kHz、10W負荷●SN比：-103dB(1kHz, ref. 6.325V)●サイズ：482W×350H×430Dmm●質量：55kg
●オプション：専用ベース AMP III AMP BASE ¥100,000(税別)
<MONO III>●電圧利得：25dB●電源トランス：1,600VA×2●電源キャパシター：120,000μF●出力(THD+N=0.1%)：1,100W(4Ω)、600W(8Ω)●最小スピーカー負荷インピーダンス：4Ω●立ち上がり、下がり時間(方形波 20kHz 12Vpp)：3.1μs/4Ω●高調波歪(THD+N)：0.003%/4Ω、1kHz、10W負荷●SN比：-95dB(1kHz, ref. 6.325V)●待機電力：170W●サイズ：482W×350H×430Dmm●質量：60kg●オプション：専用ベース MONO III AMP BASE ¥200,000(税別)●取り扱い：(株)ハイ・ファイ・ジャパン



積層構造になっているAMP II-MK3の内部。写真は最上段。MOS FETが片チャンネル12個、計24個用いられている。電源トランスなどはこの下に配置されている

瑞々しい音の再現性を 追求するハイエンドブランド

私は、ドイツのハイエンドブランド、「アコースティック・アーツ」のモデル達を見てみると、その美しく、精密感を感じさせる姿に思わず感激してしまふ。セレクトアススイッチやボリウムノブの光沢のあるシルバー仕上げとセンタのブランド・ロゴは、まさに、このブランドのアイコン。仕上りの良いアルミケースとともに高級感を鮮明にしている。このブランドは、CDやLPなどのディスクメディアを大切に、現在のハイレゾ・ネットオーディオ再生にも積極的だ。最近のモデルでは、エボリューション・シリーズのCDプレーヤー、PLAYERES・MK2やネットワークプレーヤー、STEREAMESが登場し、ディスクとハイレゾダウンロードメディアの両面を捉えている。

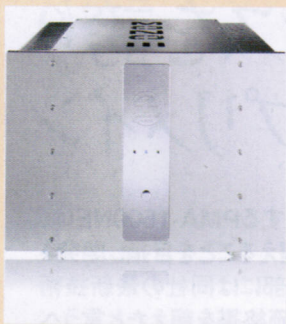
では、このブランドの音作りは？と読者に尋ねられると、私は、「生の音楽とオーディオ再生に不可欠な、豊かな倍音の再現性。そして臨場感に溢れた、瑞々しい音の再現性を追求している」と答えることだろう。

このブランドの技術の特徴のひとつは、トランジスターやオペア

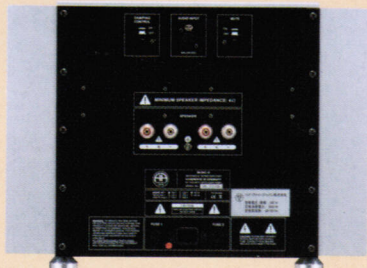
ンプなどの半導体だけを現代流に使うのではなく、真空管も必要に応じて、使用する。何故なら、たとえCDを再生しても、アナログレコードのような豊かな倍音を再現したいからだ。いかにも半導体の音というような「冷めた音」は、このブランドには、ふさわしくない。たとえ半導体CDプレーヤーやアンプを作ったとしても、アナログらしさを醸し出すコンデンサーや抵抗を採用し、高音質コンデンサーを使った電源部で、さらに豊かな倍音と躍動感をブラッシュアップする。ゆえにドイツ・ロマン派の交響曲などのCDやLPを再生すると、木質感たつぷりの弦楽や鮮やかな金管楽器の響きが鮮度高く再現され、さすが、ドイツのブランドだと感心させられてしまふ。

このブランドは、さらなる音楽の鮮明な躍動感を再現するために、リファレンス・シリーズのステレオ・パワーアンプ、AMP II-MK3とモノラルパワーアンプMONO IIIを登場させた。

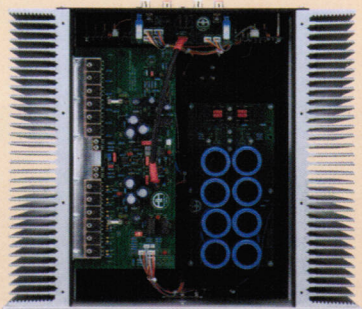
これらのモデルの大きな特徴は、スピーカー制動力の指標となるダンピングファクターの向上である。ダンピングファクターとはスピーカーのインピーダンス(例えば8Ω)をパワーアンプの出力インピー



AMP II・MK3とほぼ同じデザインのMONO III。トップパネルのモデル名は、縦書きで切り込まれている。筐体はアルミ製



MONO IIIの入力端子はXLRのみ。極性は2番ピンがHOT。スピーカー出力端子は2系統を装備。ダンピングファクターの直線化スイッチとミュートスイッチを持つのはAMP II・MK3と同じである



MONO IIIの内部も、最下段に電源トランスを置いた積層構造。MOS FETを12個搭載した基板を2枚用い、計24個のMOS FETでドライブする。基板には「Handmade in Germany by ACCUSTIC ARTS」の文字が入られている



AMP II・MK3/MONO IIIの専用ベース(オプション)。脚部にはスパイクを用いている

ダンスで割った値で、この数値が大きいほど、アンプの出力インピーダンスが低くなり、スピーカー制動力が高いということになる。そこで、この両モデルでは、スピーカーから、さらなる音楽の躍動感を再現するために、「独自のダンピングファクターの直線化」回路をアンプに搭載した。これは、再生する全帯域で、小音量から大音量まで、リニア(直線的)に高いダンピングファクターを実現する技術であることが、見て取れる。この技術により、ディスクメディアはもちろんのこと、ハイレゾミュージックの24 bitの広いダイナミックレンジ特性を、存分にリッサーに披露することができるのである。

DFスイッチをONにすると驚くほど立ち上がりが俊敏に

ステレオ・パワーアンプ、AMP II・MK3は、トップボードにモデル名が切削で掘り抜かれ、エレガントなフェイスは、このブランドの象徴。内部を見ると、デュアルモノ構成で、シールドされた1100V Aのトロイダルトランスを左右用に2基配置。コンデンサーは、合計で1600000 μFと大容量だ。肝心な出力段では、MOS FET出力トランジスタ1を1chあたり、6個パラレル・プッシュプルで使用し、(左右合計で、24個)80V負荷で275Wの出力を発生する。リアパネルには、ダンピングファクター直線化回路(DF)のON/OFFのスイッチを配置している。この回路につい

ての詳細については公開されていないが、「オフセット」のためのサーボ回路の必要性を排除したとのことなので、帰還を軽くかける、または無帰還に近い状態にするなどの独自の帰還制御をON/OFF Fできるようなしたと思われる。実際にDFスイッチをOFFにして試聴すると、このブランドの伝統的な特徴である、柔らかさ、わずかに温かみを感じさせる音が再現され、ヴァイオリンを始めとする弦楽器、シンバル、金管楽器などの音を聴くと、アナログらしい豊潤な倍音が体験でき、スピーカーを朗々とドライブする。高出力であるが、比較的少ない数のMOS FETを使用しているのも、高域にフレッシュな質感を憶える。次にDFスイッチをONにすると、驚くほど、立ち上がりが俊敏にな

り、スピーカーをドライブするというより、ガツリとグリップした感じになる。あたかも完全無帰還アンプに変貌したかのようで、ジャズやロックのハイレゾを聴きたくなった。曲やジャンルによって、DFのON/OFFを使い分けても良いであろう。

広い空間と深い奥行きを再現奏者をリアルに描写する

次に驚愕級モノラルパワーアンプ、MONO IIIを紹介しよう。このモデルの内部では、シールドされた1600V Aのトロイダルトランスを2基搭載し、6個合計で120000 μFの大容量コンデンサーを使用する。MOS FETの出力段は、12パラレル・プッシュプル構成(ホット、コールドのMOS FETの合計は24個)で、

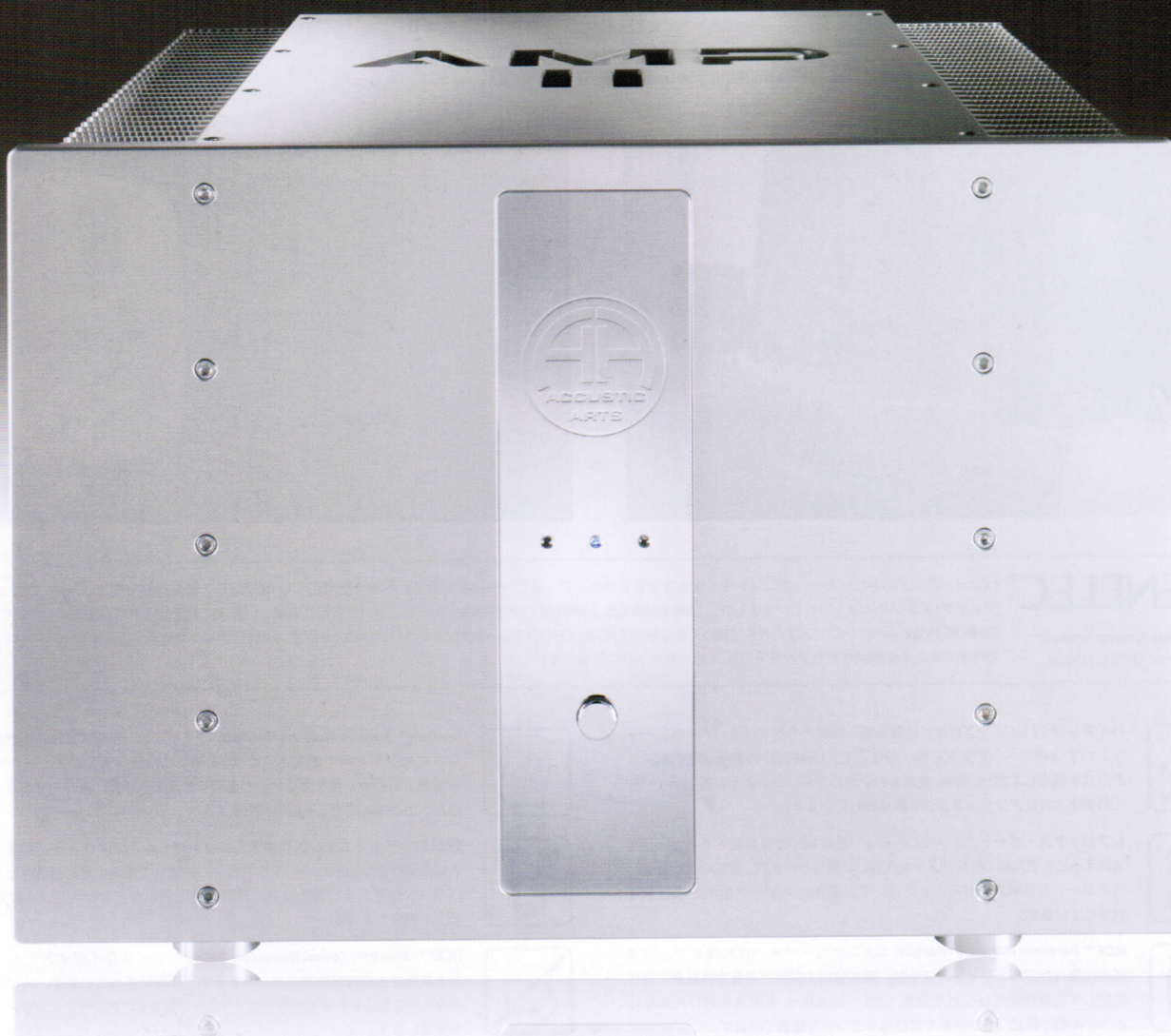
入力信号が最短距離で増幅される回路構成が特徴だ。その出力は80V負荷で、何と600Wを発生させる。

実際にDFスイッチをOFFにして試聴すると、柔らかさと深みのあるどしりとした中低域が再現され、刺激感皆無の開放感ある高域が再現される。モノラル構成なので、広い空間と深い奥行きを再現し、奏者や歌い手をリアルに描写する。また、AMP II・MK3以上に、豊かな倍音を再現するので、ハイレゾの音をさらに引き立てることであろう。次にDFをONにする。AMP II・MK3と同様に立ち上がりが俊敏になるが、ON/OFFを比較すると、このモデルでは(個人的な好みとして)ジャンルを問わず、常時ONの方が、音楽の躍動感が鮮明になる印象を受けた。

このふたつのパワーアンプは、アコースティック・アーツの創った、新しい音である。そこには、真の音楽への挑戦や生演奏に迫るほどのリアリティを感じさせてくれる。ネットオーディオに限らず、全ての再生音源の音と音楽を極めたいオーディオファイルには、ぜひ、この音、デザイン、技術に触れて欲しいと思うところである。



Finest Music Components
Handmade in Germany



--- 1997年に発表され、アコースティックアーツの顔であるAMP IIIに、定ダンピング・ファクター・テクノロジーを搭載し、AMP II - MK3として、生まれ変わりました。

Reference Series

AMP II - MK3 Premium dual-mono amplifier ¥1,850,000
TUBE PREAMP II MK2 Premium tube hybrid preamplifier ¥1,450,000
TUBE DAC II MK3 Premium tube hybrid DA converter ¥1,450,000 10月発売
DRIVE II Premium CD transport ¥1,430,000
TUBE PHONO II Premium tube hybrid phono preamplifier ¥1,450,000
www.accusticarts.com / www.hifijapan.co.jp